

市史編さんだより



(52)

イエと社会

東村山の民俗のなかで注目されるもののひとつとして、本家と分家の民俗があります。それぞれの家族が、社会と関係をもつ場合、この本家と分家の関係がひとつの出発点となり、日常生活や結婚、葬儀などの冠婚葬祭にあたって親密な交際が行なわれます。

東村山では、本家はホンケ、分家はブンケ、イン

キヨとよはれ、本家と分家を合わせたまとまりをシルイとよんでいます。長男の人が本家を相続し、次男や三男の人が新たな分家を創設する場合、分家をブンケとよび、逆に次男や三男の人が本家を相続し、長男が親とともに新たな分家を創設する場合、こうしてできた分家をインキヨとよんでいます。インキヨは、父親の死後、長男が母親とともに分家する例が東村山では多いようです。ブンケは全国に一般

的にみられる通常の次三男分家ですが、インキヨは親が子供とともに分家を創設する形態で、これを一般的には「隠居分家」とよんでいます。隠居分家は西日本地方に多く、たとえば四国地方の山村では、親が長男に跡を譲ったあと次三男などの長男以外の子供を連れて分家し、さらに次男が成長するとその分家も譲り、さらに三男たちとあらたな分家を創設し、一代の間につきつきと隠居分家をくりかえす例も報告されています。東村山の本家と分家の第一の特徴は、こうした二つの分家方式が行なわれている点にあります。

第二の特徴は、本家分家の格差が伝統的に比較的小さいことです。東村山では、通常の次三男の分家のなかにも、本家からかなり多くの財産分与を受けて分家する例があり、また、インキヨは経済的にも心理的にも本家との著しい格差のない本家分家関係を形成するのが一般的です。また、東村山ではシルイと呼ばれる本家分家のまとまりがあります。シルイはもともと同じ土地を分け合った関係を意味していますが、これはきわめて対等的な関係の特徴としていえます。この関係はまた、結婚によって結ばれる親類とは違って、長い世代にわたってつきあうべき関係とされています。

東村山のシルイのような対等的な本家分家関係は、関東地方や中部地方の農村に多く、ジミヨウ、ジワケなどともよばれておられます。日本の本家・分家関係には、本家分家間のきわめて格差の著しい「同族」と、対等的な「同類」のふたつの形態がありますが、東村山では対等的なシルイを基礎に、本家分家のさまさまなつきあいが展開されてきたわけです。

(民俗担当 上野和男)

